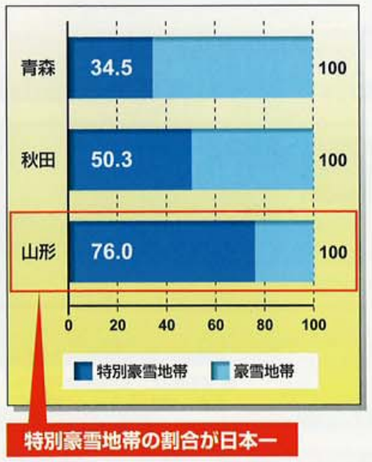
1 山形県の現状

県土の**76%が特別豪雪地帯**に指定されており、雪道に強い道路整備が必要とされています。
特に「平成18年豪雪」により、各地で大きな被害をもたらしました。





特別豪雪地帯の割合が日本一

～平成18年豪雪による被害～



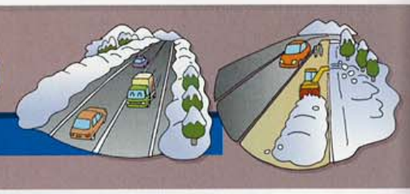
雪崩により全面通行止め（国道113号）



大量の融雪水により路面が冠水して歩くのもままならない（尾花沢市）

安心安全なみちづくり(3)

冬期も安心安全な道路空間を確保します



基本方針（テーマ）6

平成18年度以降への反映

大雪を想定した早めの広報や積雪量が多いなど緊急性の高い地域の整備を進めます

3 平成18年度の代表的な取り組み（業績計画書）

雪道に関する呼びかけや、雪の積もらない道路の整備を進めます。

冬期安全道路整備率※1

平成17年度 実績	平成18年度 目標
13.6%	13.9%

取り組み1 冬タイヤ装着運動の実施

チェーンや冬タイヤ未装着による通行不能車両の発生等を解消するため、早い時期に装着の呼びかけを推進します。





事例：秋田県での冬タイヤ装着運動のポスター

取り組み2 国道344号真室川町平岡地区の流雪溝整備

未整備区間の整備を引き続き行い（平成17年度に片側のみ整備）、冬期の安全な歩道スペースを確保します。



取り組み3 国道47号戸沢村古口地内流雪溝整備

流雪溝を整備し、安全な歩道を確保します。



※1：冬期安全道路整備率とは、車道部幅員8.5m以上の道路延長割合のことをいいます

平成17年度を振り返って

着実に雪みち対策を推進していますが、「平成18年豪雪」により大きな被害を受けました。
県内には、依然として雪に弱い道路がたくさん存在しています。

2 平成17年度に実施した代表的な取り組み（達成度報告書）

降雪による影響を小さくするため、雪みちに関する情報提供や、雪の積もらない歩道の整備、道路上での堆雪幅確保などを進めました。

冬期安全道路整備率※1 **目標達成**

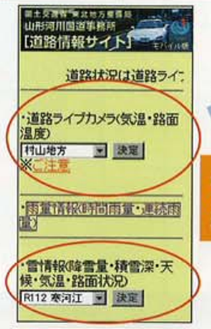
平成17年度 目標	平成17年度 実績
11.6%	13.6%

取り組み1 携帯サイトで雪みち情報の発信

道路の雪情報やライブカメラ映像、雪による規制情報を携帯電話により提供し、雪道の走行を支援しました。情報提供は今後も継続して実施します。



山形河川国道事務所ホームページの携帯サイト案内



道路ライブカメラを選択すると

携帯サイトのトップ画面



道路ライブカメラ

取り組み2 ホワイトアウト※2対策の実施

雪壁に塗料でラインを引き、ホワイトアウト発生時の視線誘導や雪壁への衝突を防ぎます。対策は平成18年度も引き続き実施します。

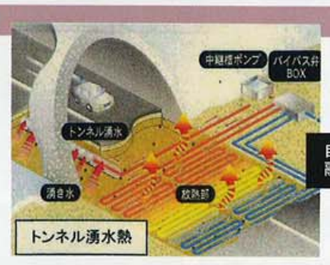


国道112号月山道路

※2：ホワイトアウトとは、吹雪で発生したガス、舞い上がった雪などが白い闇となって辺りを覆い、視界を完全に奪ってしまう現象

取り組み3 国道13号主寝坂道路の雪みち対策

トンネル内の湧水熱などの自然エネルギーを活用して道路上の雪を溶かすことで、自然環境への負荷を抑えて冬道の安全を確保しています。



自然エネルギーを用いた融雪システムのイメージ

取り組み4 国道7号歩道の無散水消融雪化

国道7号（酒田市市街地部）において、無散水消融雪施設を整備しました。今年の冬より安全で快適な歩行空間が確保されます。対策は平成18年度も引き続き実施します。



整備事例：国道7号（H17整備区間の北側区間）



